

個人として無意識の偏見に立ち向かうには

「誰でも無意識の偏見をもっている。だからといって悪人というわけではない。それこそが人間だから。」

ロッド・ボルジャー
SVPファイナンス&コントローラー、RBC

自分の先入観を疑う

まず自分自身に聞いてみてください。なぜ自分はこのような判断をくだしたのか。もし、対象が異なる立場の人（女性ではなく男性、母親ではなく子供がいない人など）だったとしても、同じ結論を出すだろうか。

分析する

自分自身が体験したもしくは持っている偏見や、社会的烙印を押されたアイデンティティ・価値観を隠すための戦略・方法が、自身の価値観や組織の価値観と一致したかどうかを問うてください。異なっている場合は、それを改善する機会を見つけましょう。

リスクをとる

自分にとっての快適なゾーンから外に出てください。現状の価値観や立場に拘らず、リスクに向き合い、リスクを価値あるものにするためのサポートをしてくれる上司、メンター、スポンサーなどを見つけましょう。

現状を打破する

現状において偏見を固定化する可能性のある要素に挑みます。たとえば、自分とは異なる属性を持ったグループからメンターやスポンサーを見つける、協力者としてERGに参加する、複数のグループにまたがる勉強会や活動を推進する、あるいはそれに参加することによって、違いを超えたつながりをつくりましょう。

発言する

自分にとってやりやすい方法（メンターと二人だけで話す、社員対象の調査で匿名で意見を書く、ERGの会議で話すなど）で問題について話し合しましょう。様々な経験を共有して共通点を見つけ、解決策に結びつく対話を始めましょう。

自分に責任を持つ、他者にも責任を持ってもらう

内省、学習、そして自分の行動や経験を継続的に分析することに自ら責任を持ちます。同時に、他の人が偏見を伴う行動をしているのを見たときには、礼儀をわきまえた上でそのことを指摘し、別の建設的な考え方を提案しましょう。

黄金律

銀色律

プラチナ律

「自分が人にしてほしいと思うことを人にする」

「自分が人にしてほしいと思うことは人にしない」

「人が扱ってほしいと思うように人を扱う」